

本村小学校



本村小学校だより 第2月号

発行所 港区立本村小学校
〒106-0047
港区南麻布3-9-33
TEL:03-3473-1462
FAX:03-3443-8535

前のできる校長 山村 登洋

留意され、この学年末を乗りきってほしいと思います。

今月の「自己肯定感言葉」 「しあわせはいつも じぶんのこころがきめる」相田みつを

インフルエンザ

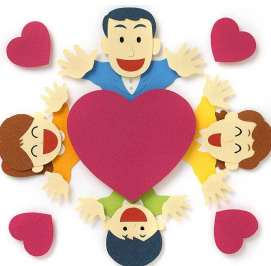
暦の上では大寒も後半となり、寒さの厳しい日が続いております。気になるインフルエンザはまだ猛威をふるっているようです。本校では幸いにも学級閉鎖は出ていませんが、東京都には流行警報が発令されています。お子様とご家族の健康には十分

命の詩人 相田みつをさん

私の大好きな詩人に相田みつをさんがいます。命の詩人とも言われる相田みつをさんの有名な言葉の中に「いいことはおかげさま、わるいことは身から出たさび」という言葉があります。私も大好きな言葉です。ここまで謙虚になるのは大変ですが、一歩でも近づきたいものです。さらに相田みつをさんはこう続けています。いいことがあった時に感謝をすると、さらに幸せな気持ちになれます。いいことがあった時に「当たり前」と思うと、あまり幸せ

は感じられません。悪いことがあった時に「誰かのせい」にすると、よけいに腹が立ちたり悔しかったり悲しかったりします。悪いことがあった時に「こういうこともある」「しかたがない」と考えれば、まだラクです。「相田みつを」に「んげんだもの」(文化出版局)より

人は多くの人のおかげでラクに、幸せに生きていくことができます。「おかげさまで」と感謝できるのは大変幸せなことです。周りの人に感謝して、できなかったことは自分の努力不足だと考え、考えること、大切なことです。今年度も残り2ヶ月となりました。特に6年生は卒業までのカウ



「5年生と幼稚園年長園児との交流プログラム」

今年度から、5年生と併設の本村幼稚園の年長はと組との交流を定期的に行っています。1月も5年の子供たちが縄跳びで交流をしました。5年生がいろいろな跳び方を披露しながら、優しく園児に教えてあげていました。最後に二重跳びの連続跳びを披露すると、はと組の園児は、口を開いたまま、「すーこーい」と拍手が湧き起こりました。

来年は、お互いに進級、入学して6年生と1年生になります。

今度は本村小の兄弟学級として1年間交流をしていきます。楽しみですね。



「当たり前前のできる」

私は3学期の初めに「当たり前前のできる3学期にしよう」と子供たちと話しました。あいさつをきちんとする、名札を付け

る、校帽を被る、遅刻をしない、時間を守る、返事をしっかりとする。これこそ、学校では当たり前前のできるようになってほしいことです。このような当たり前前のできることを、当たり前前のできる、気にしなくても自然に出来るようになることが大切です。しかし、部分的にできてはいてもトータルにできることは実は難しいことでもあります。でも、トータルにできるようにすれば、それは大きな信頼、個性につながると思います。これも自己肯定感の向上の原動力になるのではないのでしょうか。